

取扱説明書

株式会社 和工

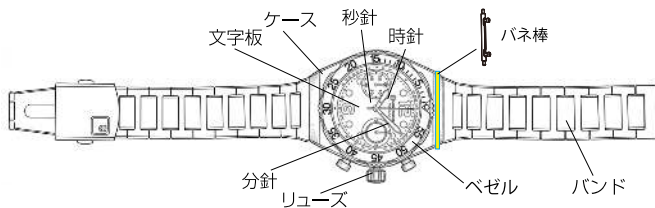
お客様へのご注意

1. お買い上げいただいた腕時計は、本体、金属バンド又は皮革バンドが直接肌に密着しますので、場合によっては金属アレルギーや皮膚のかぶれを起こすことがあります。その時はただちに使用をおやめ下さい。
2. 時計を装着した腕で身体をこすったりすると身体に傷をつける場合がありますのでこのような行為はおやめ下さい。
3. サウナ風呂など高温の場所で使用すると火傷をすることがありますので使用をさせて下さい。
4. 時計をしたまま激しい運動をしますと、それが原因で時計が破損して怪我をする場合がありますので運動時の使用はおやめ下さい。
5. 万一、時計が落下して破損した場合は、速やかに破損片をかたづけて下さい。お客様が部品を飲み込んだり、思わぬ怪我をする場合があります。
6. 汗、及びほこり等により衣服の袖口が汚れる事があります。(時計のお手入れ方法をご参照下さい。)
7. 時計は、潜水用ではありませんので潜水時の使用はおやめ下さい。
8. 時計を改造して使用した場合の怪我等については、保証をいたしかねますので予めご了承ください。
9. 誤った使用によって怪我をした場合の保証はいたしかねますので予めご了承ください。
10. 健康器具(磁気)等との併用は、時計の時間遅れの原因となりますのでお避け下さい。

保証規定

- *保証期間に正常なご使用状態で、万一故障した場合には無料で修理・調整いたします。
- *つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理となります。
- (イ) (注) 誤ったご使用や、不注意による故障または損傷。
- (ロ) 不適当な修理や、改造による故障または損傷。
- (ハ) 火災、水害または地震など、天災地変による故障または損傷。
- (ニ) ご使用中に生じた外観上の変化。(ケース、ガラス、バンドの小キズなど)
- (ホ) 保証書の字句を書き換えられた場合。
- (ヘ) 保証書の提示がない場合。
- *革バンド・合成樹脂バンド及び電池などの消耗品は保証の対象外になります。
- *修理の際、ケース、文字盤、針、ガラス、バンドなどは、一部代替部品を使用させていただく場合もございますのでご了承ください。
- *本保証書は明示された保証期間及び保証条件に従い、対象製品に対して無償修理をお約束するものです。
- *当社宛郵送又は輸送の際の料金は、お客様にてご負担願います。
- (注) 誤った使用とは非防水時計を水中に入れた場合、高温または低温のところに時計を置く場合などの使用状態を言います。

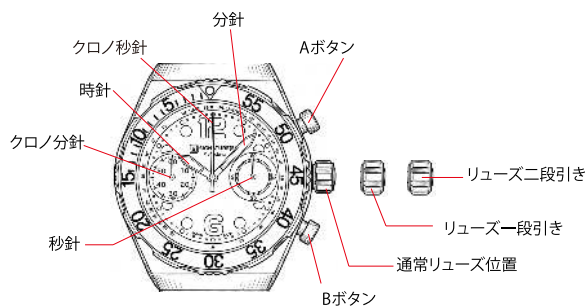
①時計各部の名称



②アナログ(針式)クォーツ時計の仕様

- ・機能 : センタークロノグラフ機能付き
 - ・時間精度 : ±20秒/月(常温における携帯精度)
 - ・運針方式 : 1秒ステップ運針、センタークロノ秒針1/4秒単位で最大59分59秒まで計測可。
 - ・表示方式 : ダイアルと針によるアナログ式
 - ・使用バッテリー : 酸化銀電池
 - ・電池寿命 : 新しい電池組込後約4年(酸化銀電池)
- ※但し、ご使用中の時計にかかる負荷が環境及び使用状況等によって個々に異なりますので電池交換後必ずしも4年を保証するものではありません。

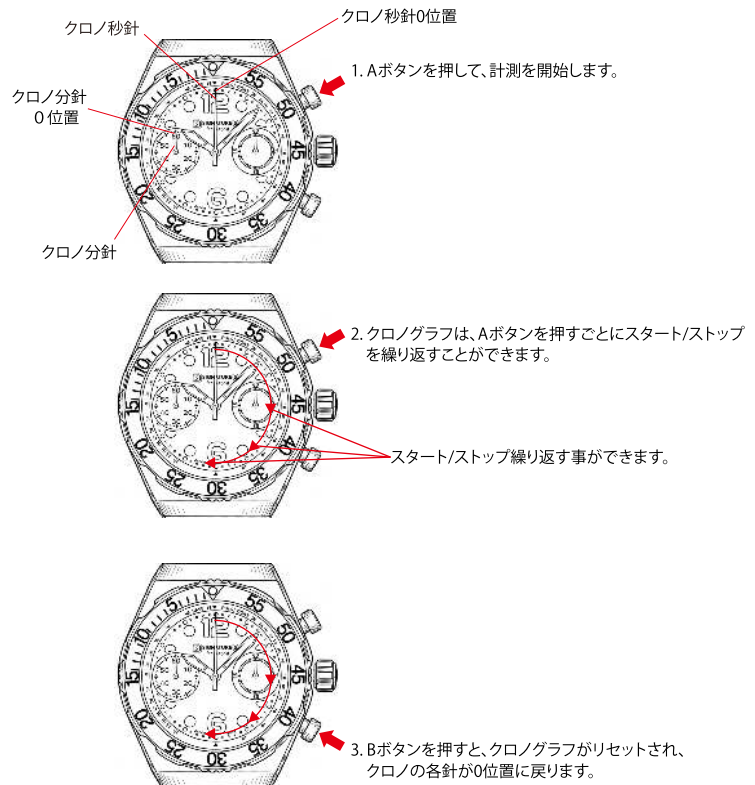
③表示部とボタン



④時刻の合わせ方



⑤クロノグラフの使い方

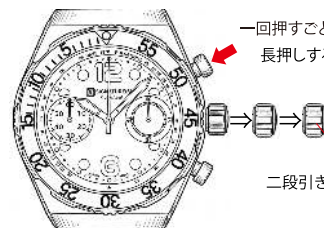


⑥クロノグラフの針がリセットされない場合(電池交換の後など)

クロノグラフをリセットした後や電池を交換した後など、クロノ秒針が0位置に戻らない時にこの手段を実行してください。



1. リューズを二段引きます。



一回押すことに秒針1/4秒単位移動します。長押しすると速く進めることができます。

二段引きのまま操作します。

2. リューズは二段引いたままAボタンを押してクロノ秒針を0位置に合わせます。
※クロノ秒針は、Aボタンの長押しを続けることによって、速く進めることができます。

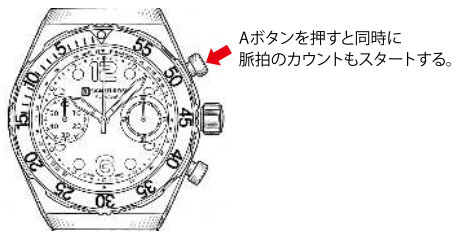


3. クロノ秒針が0位置に戻ったら、Bボタンを押します。リューズを通常位置に戻します。

⑦ アナログパルスメーターの使い方

文字盤の外周に「GRADUATED FOR 15 PULSATIONS」と記載されています。
これは「15回脈を打つまでの時間を測ってください」という基準を示しています。

1. 脈を測る準備をする
測定対象者の脈をしっかりと捉えます。
2. 計測をスタートする
クロノグラフのスタートボタンを押し、ストップウォッチの秒針を動かします。
同時に、脈のカウントを「0」からスタートします。

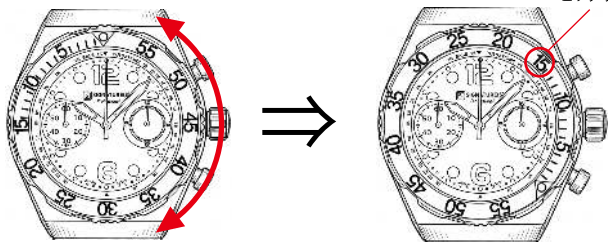


3. 脈を15回数えたらストップする
脈が「トントン……」と打つのを数え、15回目の拍動を感じた瞬間にAボタンを押してクロノグラフの秒針を止めます。
4. 秒針が指している「目盛り」を読む
止まった秒針が、文字盤の外周にあるパルスメーターの数字 (50~200などの数値) のどこを指しているかを確認します。その数字が、そのまま「1分間のおおよその心拍数 (BPM)」になります。

⑧ カウントダウンタイマーの使い方

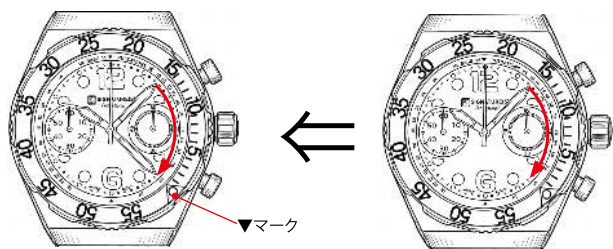
回転ベゼルを使用し時間を計測します。
両回転ベゼルなので、左右どちらから回して合わせても構いません。
下図、例として、「15分間」を計測したい (15分後にアラーム代わりに確認したい) 場合の説明を参照下さい。

15分タイマーセット
分針とベゼルの15を
ピッタリ合わせます



1. 両回転ベゼルの回し計測したい数字を「分針」に合わせる

2. 今回は 15分間を計測しますのでベゼルの15を現在の時計の分針にぴったり合わせます。



4. 分針がベゼルの▼三角マークに達したらタイムアップ
分針がベゼルのスタート地点である▼三角のマークを指したときが、ちょうど15分経過 (残り時間ゼロ) の合図です。

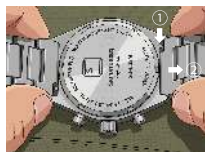
3. そのまま時間を過ごす
時間が経つにつれて、分針は時計回りに進んでいきます。

⑨ 金属バンドの脱着方法

バンドのバネ棒は、「クイックリリース式」のバネ棒が採用されています。次の説明を参照下さい。

◆ バンドを外す手順 ◆

- 突起の位置を確認する
時計を裏返し、バンドの付け根 (バネ棒) にある小さな突起を確認します。
- 突起を内側につまむ
両手の指を使い、①の突起を中央に向かって同時に、つまむように②の方向へスライドさせます。これにより、バネ棒の先端が内側に引っ込みます。
- 本体から引き離す
突起を内側に押し込んだ状態を維持したまま、バンドを時計本体からゆっくりと手前に引き離します。
- 取り外し完了
時計本体からバンドが完全に分離します。



- ①の矢印は、突起のつまむ方向です。
- ②の矢印は、スライドさせる方向です。

◆ バンドを取り付ける手順 ◆

- バネ棒を縮める
外す時と同様に、バネ棒の突起を指で内側につまみます。
- 時計本体に合わせる
バネ棒の突起をつまんで、時計本体のラグ取り付け部の穴にバンドの位置を合わせます。
- 指を離して固定する
正しい位置に一致したら指を離します。バネ棒の先端が時計本体の穴に入り、しっかりと固定されれば取り付け完了です。
- 確認のポイント
取り付け後は、時計を着用する前にバンドを軽く引っ張り、外れないことを必ず確認してください。

⑩ 皮バンドの脱着方法

バンドのバネ棒は、「クイックリリース式」のバネ棒が採用されています。次の説明を参照下さい。

◆ 皮バンドを外す手順 ◆

- 突起の位置を確認する
時計を裏返し、バンドの付け根 (バネ棒) にある小さな突起を確認します。
- 突起を内側につまむ
両手の指を使い、①の突起を中央に向かって同時につまむように②の方向へスライドさせます。これにより、バネ棒の先端が内側に引っ込みます。
- 本体から引き離す
突起を内側に押し込んだ状態を維持したまま、バンドを時計本体からゆっくりと手前に引き離します。



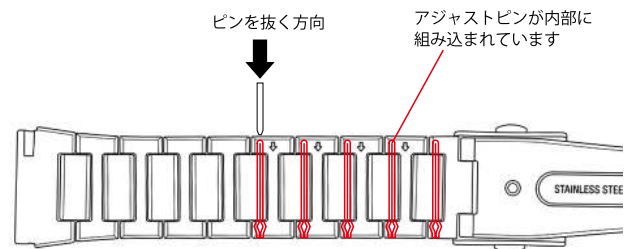
- ①の矢印は、突起のつまむ方向です。
- ②の矢印は、スライドさせる方向です。

◆ バンドを取り付ける手順 ◆

- バネ棒を縮める
外す時と同様に、バネ棒の突起を指で内側につまみます。
- 時計本体に合わせる
バネ棒の突起をつまんで、時計本体のラグ取り付け部の穴にバンドの位置を合わせます。
- 指を離して固定する
正しい位置に一致したら指を離します。バネ棒の先端が時計本体の穴に入り、しっかりと固定されれば取り付け完了です。
- 確認のポイント
取り付け後は、時計を着用する前にバンドを軽く引っ張り、外れないことを必ず確認してください。

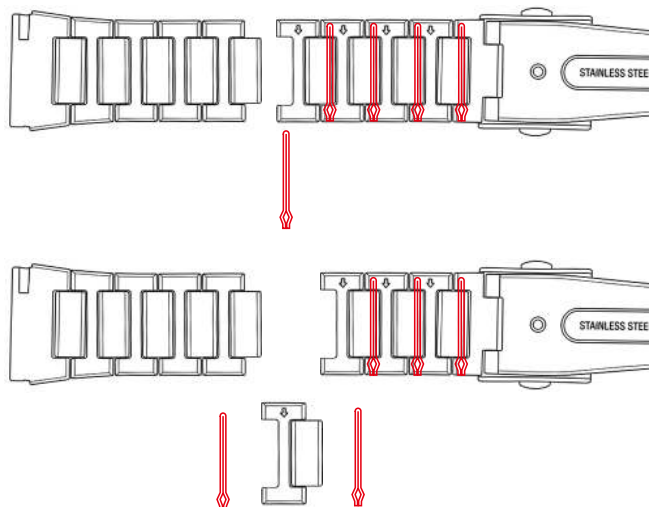
⑪ バンドサイズ調整方法について

裏面の矢印方向へ側面の接続ピンを千枚通しのようなもので押し出し、ピンを抜いて下さい。

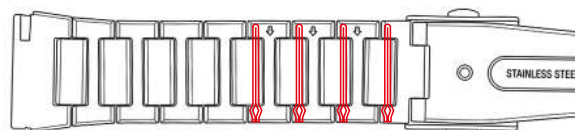


必要な分だけバンドのコマ抜き取り、長さを調整します。

下記は、一コマ詰める例



バンドをつないで、ピンを元のように安全に押し込んで下さい。



⑫防水性について

用途は下図参照の事

タイプ	使用条件	●一般的にかかる水滴 (洗顔・雨等)	●水泳、ヨット等の水上 スポーツ、漁業・農業 等の水仕事、水道の 蛇口等強い水流	●酸素ボンベを使用し ないスキューバダイビング	●水中でのリユース操作 並びに水滴の付いた ままでのリユース操作
強化防水20～30気圧		○	○	○	×
強化防水10気圧		○	○	×	×
強化防水5気圧		○	×	×	×
日常生活用防水		○	×	×	×
非防水		×	×	×	×



⑬使用上の注意事項

1、温度について

直射日光の当たる場所や高温または低温の環境下に長時間放置しないようご注意ください。故障の原因(遅れ・進み)や電池寿命の短縮につながるおそれがあります。
※特に－5℃以下または＋50℃以上の環境下で長時間放置すると、動作不良の原因となります。



2、ショックについて

軽度のスポーツによる影響はほとんどありませんが、激しい動きを伴うスポーツの場合は破損やケガの原因となるおそれがあるため、ご使用をお控えください。
※床や道路などへの落下を含む激しい衝撃を与えることはお控えください。



3、磁気について

磁石や磁石付きの製品、磁力を発生する製品などには近づけないでください。
※磁気の影響で時刻がずれる場合は磁気源から遠ざけて時刻を修正してください。
必要に応じて磁気抜きを行ってください。



4、振動について

オートバイ・削岩機・チェーンソーなどの強い振動が加えられた場合一時的に遅れる原因となります。



5、化学薬品・ガス等について

ガス・水銀・化学薬品など(シンナー、ガソリン各種溶剤又それらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、化粧品等)が触れるとケース、バンド、文字盤に変色が生じます。



6、海水に入ったときのお手入れ方法

ケースについた海水を真水でよく洗い落としてサビが出ない様にしてください。又、洗った後は柔らかい布等でよく水分を拭き取ってください。怠りますとケース・バンドにサビが発生し腐食の原因となります。

⑭時計のお手入れ方法

●ケース・バンド
ケース・バンドは肌着類と同様に直接肌に接していますので、汚れたままにしておきますと、衣服の袖口を汚したり、支度の弱いかたは、かぶれたりします。汚れや水分はやわらかい吸湿性のよい布で拭きとり、常に清潔にしてご使用ください。また汗をかきやすい季節には、バンドを少しゆるめにつけ通気性をよくして下さい。



●金属バンド
時々やわらかい歯ブラシ等を使い石けん水で部分洗いなどをして下さい。(汚れたままにしておきますと、サビたり食してしまいます。)
※非防水時計は時計本体に水がかからないようにご注意下さい。



●皮革バンド
水分、汗、汚れなどが大敵です。皮膚がかぶれる原因となりますので時計をはずしたあとは、吸湿性のよい布で拭いて、風通しの良い所においてください。



●点検のすすめ
電池交換時または2～3年に1度の点検をおすすめします。保油状態・漏液の有無・汗や水分浸入の有無などを、お買い上げ店または、販売店で点検してもらってください。
点検の結果によっては、分解掃除を必要とする場合があります。
※そのときにバッキンやバネ棒の交換を御依頼下さい。
※部品交換のときは「純正部品」とご指定下さい。

